

令和2年度日本語学校教育研究大会実施要項

1 趣旨

一般財団法人日本語教育振興協会維持会員及び準会員機関に勤務する教職員等を対象として、日本語学校教育のより一層の充実並びに日本語教育機関としての社会的地位の確立を目指し、各機関で展開されている豊かな教育実践を機関を越えて共有することを通して教職員の資質の向上を図ります。

2 実施方法

ZOOMによるオンライン開催

3 日程

2月27日(土) 1日目

9:00～	受付
9:40～10:00	オンライン参加についての事前説明
10:00～10:30	開会挨拶・大会趣旨説明
10:30～12:00	入管庁・文化庁講演(質疑応答含む)
昼休憩	
13:00～15:00	パネルセッション

2月28日(日) 2日目

9:00～	受付
9:40～10:00	オンライン参加についての事前説明
10:00～10:05	趣旨説明
10:05～11:35	対談
昼休憩	
13:00～13:45	講演
14:00～15:15	実践ちよつと見

※日程等は変更になる可能性があります。ご了承ください。

4 参加資格等

- (1) 一般財団法人日本語教育振興協会維持会員及び準会員機関に勤務する教職員、その他関心のある者としてします。
- (2) 1機関から多数の教職員が参加していただいて差し支えありません。ただし、定員(450人)を超える場合は、お断りする場合がありますのでお含みおきください。両日又はいずれか1日のみの参加でも結構です。

5 参加費

維持会員及び準会員機関(年会費納入校)	2,200円(税込)/1人当たり
賛助会員	3,300円(税込)/1人当たり
その他の教育機関、個人	4,400円(税込)/1人当たり

<令和二年度日本語学校教育研究大会趣旨>

大会テーマ『日本語学校教育の挑戦—with コロナ・post コロナ・そして New normal へ』
大会委員長 佐久間みのり（学校法人石川学園横浜デザイン学院日本語学科）

令和時代の幕開けとなった昨年、令和二年度がこのような一年になるとは、だれが想像したでしょうか。新型コロナウイルス感染症の影響により、今まで当たり前であったものの価値が一変し、授業も、学校も、教師も、職員も、学習者も、それぞれが変化を迫られ、挑戦する一年だったのではないのでしょうか。本研究大会も、例年は夏季休業期間の前後である7月から8月に開催をしておりましたが、日本語能力試験や日本留学試験まで中止となるような状況で、例年通りには開催することはできませんでした。しかし、それぞれの学校で、それぞれが授業や学習者、そして学校の意義について考えたこの一年の最後に、私たちの挑戦を共有し、つながる場を作りたいと思い、オンラインで日本語学校教育研究大会を開催することといたしました。

大会1日目は、「ポストコロナ時代の日本語教育を考える」をテーマに、出入国在留管理庁より、コロナ禍での特別措置を含めた外国人留学生の在留管理を中心にお話しいただき、文化庁より、昨年度からの重点課題となっている日本語教師の資格、日本語教育の標準、日本語教育人材の研修について進捗状況等をお話しいただきます。大会をきっかけに、一教師・一職員・関係者が、当事者として留学生や日本語教師を取り巻く大きな流れとつながる場としたいと思います。その後は、持続可能な日本語教育という視点から、English UK 理事であり Celtic English Academy 代表のドハティ祥子氏に英国のコロナ禍の留学事情や対応についてお話を伺います。最後にオンライン教育にまつわる現状や課題を踏まえ、日本語学校の現場の当事者によるパネルセッションを予定しております。

大会2日目は、「日本語学校教育のニューノーマル（新常态）を考える」をテーマに、カリフォルニア大学サンディエゴ校の當作靖彦氏、コミュニカ学院の奥田純子氏による対談、そして「オンライン授業のデザイン——学び続ける日本語教師」をテーマとした日本大学大学院の保坂敏子氏の講演を予定しております。改めてこの一年の挑戦を振り返り、明日へと踏み出すきっかけになればと思います。また、大会では例年、教育実践の改善・向上・情報の共有化を目指し、ポスター発表、口頭発表を行っておりましたが、今年はコロナ禍に対応するために、機関や教職員が果敢に取り組んだ教育活動を共有することを目的に、「実践ちょっと見」を開催いたします。「実践ちょっと見」では、参加者の皆さんには、発表者が事前に録画した発表動画を視聴していただきます。そして、大会当日は、発表者、参加者による質疑応答や意見交換はもとより、機関を越えた交流の場とすることを目指しています。以上のように、今年度の大会は、大会自体が newnormal を見据えた新しいチャレンジとなっております。

今年一年の日本語学校の挑戦は、with コロナ、post コロナを経て New normal（新常态）へとつながっていきます。本大会を、日本語教育を語り、共に考え、newnormal 時代の日本語学校教育実践を生み出す一歩にしていきましょう。

令和2年度日本語学校教育研究大会日程

日 程 : 令和3年2月27日(土)、28日(日)

テーマ : 日本語学校教育の挑戦 — with コロナ ・ post コロナ ・ そして New normal へ —

1日目 2月27日(土)

定員 450人

9:00～	受付
9:40～10:00	オンライン参加についての事前説明
10:00～10:30	開会挨拶 一般財団法人日本語教育振興協会理事長 佐藤 次郎 文部科学省高等教育局 学生・留学生課 留学生交流室長 高橋 一郎 大会趣旨説明 大会委員長 佐久間 みのり((学)石川学園横浜デザイン学院 日本語学科教務主任)
10:30～11:00	講演「コロナ禍での特別措置と告示基準の適用等について」 出入国在留管理庁 在留管理課調整官 伊藤 純史
11:00～11:30	講演「文化庁における日本語教育施策及び審議状況報告について」 文化庁国語課 日本語教育調査官 増田 麻美子
11:30～12:00	上記講演に関する質疑応答

昼休憩

13:00～15:00	パネルセッション「ポストコロナ時代の日本語教育を考える」 モデレータ 山本 弘子(カイ日本語スクール 代表) 登壇者 江副 隆秀 (新宿日本語学校 校長) 佐久間 みのり((学)石川学園横浜デザイン学院 日本語学科教務主任) 平岡 憲人(清風情報工科学院日本語科 校長) ドハティー 祥子(English UK 理事、Celtic English Academy 代表)(録画出演) コメンテータ 保坂 敏子(日本大学 大学院 総合社会情報研究科文化情報専攻教授)
-------------	---

2日目 2月28日(日)

対談・講演 定員 450人

9:00～	受付
9:40～10:00	オンライン参加についての事前説明
10:00～10:05	趣旨説明
10:05～11:35	対談「日本語学校教育のニューノーマル(新常態)を考える」 當作 靖彦(カリフォルニア大学サンディエゴ校 教授) 奥田 純子(コミュニカ学院 学院長)

昼休憩

13:00～13:45	講演「オンライン授業のデザイン——学び続ける日本語教師」 保坂 敏子(日本大学 大学院 総合社会情報研究科文化情報専攻 教授)
-------------	--

休憩

当日の Zoom 参加については次ページ「実践ちよつと見 一覧」をご覧ください。

14:00～14:30	「with コロナの時代」を生きるための授業実践—今だからできる、学習者の内面に迫る試み— 萩原 秀樹(インターカルト日本語学校)
	経営面から見る新型コロナ対応 徳倉 俊一(TIJ東京日本語研修所)
	留学生にとってはすべてがコスト消費 高野 裕文(ヒューマンアカデミー日本語学校東京校)
	YouTube で宿題を配信しよう！～簡単にできる映像教材配信の方法とその取り組みの報告～ 山田 貴彦(ミッドリーム日本語学校)他 1 人
	業務の効率化・教師間の情報共有・学生への情報伝達に ICT を活用しよう！ 登坂 ふたば(早稲田 EDU 日本語学校)他 1 人

14:45～15:15	場面や心情をイメージするのが困難な学習者に対する授業案—場面や心情を視覚化したコミックによる文型導入— 角谷 厚子(和歌山 YMCA 国際福祉専門学校日本語科)他 1 人
	絵で理解度を測るクリティカルリーディング 中村 妙子(フリーランス)
	さよならタバコ タバコの害と防煙・禁煙(卒煙) 八杉 倫(郡山健康科学専門学校日本語学科)
	来日前オンデマンド教材の作成と今後の可能性 佐々木 渉(学校法人石川学園横浜デザイン学院日本語学科)
	オンライン授業で通用した新しい授業方法 —自学自習を評価する授業— 平岡 憲人(清風情報工科学院日本語科)他 1 人

※なお、日程については当日一部変更になることがあります。ご了承ください。